

合併の経緯 — 上野村 —

◇明治の合併前後の上野村

明治22年（1889）に施行された市制・町村制により、下岩瀬村・上岩瀬村・根本村・泉村・宇留野村の5か村が合併して上野村が誕生しました。

明治時代の末期頃に書かれた『上野村郷土誌』（後述）によれば、寛永18年（1641）の検地以前は、上岩瀬村と下岩瀬村がひとつの村であったこと、泉と根本はそれぞれ上南羅・下南羅と呼ばれ一村であったが再び分かれて前小屋村と根本村となったこと、前小屋村はさらに文政6年（1823）に泉村と改められたことが記されています。

明治5年（1872）に施行された大区小区制では5か村ともに第十大区三小区となり、同8年の改正で第四大区八小区となりました。その後、明治11年に公布された地方三新法では、郡区町村編制法により大区小区制が廃止され、数か村の連合村に戸長役場を置くこととなります。同12年に5か村連合（連合戸長役場は宇留野村）となり、同17年に下大賀、静村を加えた7か村連合（連合戸長役場は下大賀村）となり、村の形は地方自治法制の変容に伴って目まぐるしく変わっていきました。そのような中、大区小区制下でも一体となっていた5か村は、上野村として明治22年の合併を迎えました。

村名の由来は上岩瀬村の「上」と、宇留野村の「野」を合わせたものと言われています。役場は村の中央部に当たる根本の鎌田坪353・354番地に置かれました。現在、消防詰所のある場所の道路を隔てた南の一画でした。昭和6～8年頃にかけて救済道路がこのすぐ北側に開通すると、現在の消防詰所の敷地に移転しました。



写真中央、道の右側の大きな平屋が上野村役場（小野静枝氏所蔵）

◇『上野村郷土誌』の世界

この明治の合併後の上野村のすがたを伺い知ることができる資料として『上野村郷土誌』があります。「郷土誌」とはどんな資料なのでしょう。

明治37年、38年（1904～1905）の日露戦争で各村から多くの戦死者が出ました。政府はその慰霊に努

めるとともに、国民の鼓舞、一体化に傾注するようになります。この一環として、各地の地勢や産物、歴史、神社仏閣などをまとめた「郷土誌」の作成が進められました。『上野村郷土誌』（大宮町役場文書209）は、内容から明治44～45年頃に作られたと考えられ、「第一編自然界」、「第二編人文界」に分けられ、地理や気候、地域の沿革、生業、神社仏閣などの章が設けられています。



上野村郷土誌（当館蔵）

注目されるのは、日清戦争及び日露戦争に従軍した上野村出身者の氏名や在郷軍人が列記され、特に6人の戦死者については、それぞれに詳細な経歴を掲載していることです。入隊から転戦、旅順要塞攻撃や二〇三高地での戦闘、運送船常陸丸乗艦など、村出身の兵士の従軍の様子を知ることができます。

また、明治42年には尋常小学校内に農業補習学校が設置されました。修業期間は3年で、開校当時40人ほどが在籍していたことがわかります。

◇昭和の合併と上野村

昭和28年9月に町村合併促進法が施行されると、上野村には昭和29年12月に合併調査会が組織されました。翌30年1月に各大字の意見を聴取したところ、静、大場との三村合併案が出され、協議が継続していました。ところが、同月に静村の瓜連町との合併が決まり、大宮町でも玉川・大賀・世喜・大場との合併が決定すると、急速に大宮町合併案に傾き、1月17日の合併調査会で大宮町との合併を決定し、同年3月31日に新大宮町が発足しました。これに伴い、旧上野村役場庁舎は上野支所となりました。

小野静枝さんに聞き取り調査にご協力いただきました。

【参考文献】

「上野村郷土誌」「上野村事績簿」（昭和25～27年）、塙泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『大宮町史』昭和33年、『大宮町史』昭和52年